

道徳通信

2019/06/25

No.3

東中筋中学校

道徳参観日

ありがとうございます

6月2日(日)には、道徳参観日にご参加いただきありがとうございました。道徳の授業や道徳懇談会の様子をお知らせします。

・・・道徳の授業・・・

【1年生】「ヨシト」

〔教材のあらまし〕主人公アツシの幼なじみのヨシトは、「空気の読めないやつ」と言われ、やがてヨシトに対する冷たい空気が学級全体に広がり始める。アツシはそれに腹を立てながらも、周囲の目を気にして行動を起こせない。

「この学級の雰囲気はいじめ？」という問いかけに対して、「みんなが一人の人に対してやっているのでいじめ。」

「本人は知らないし害を受けてないの
でいじめではないのでは？」と異なった
意見が出されました。みんなで意見を
出し合う中で、人によって「いじめ」の捉
えがまちまちだということが見えてき



ました。それでも、いじめは小さくなく
ればという思いは皆同じで、授業の最後
には、「いじめのない集団を作るために大
切なことはなんだろう」と言うことについ
て自分の考えを書きました。



〔道徳ノートより〕

- 人には一人一人個性があるから、そこをちゃんと理解し合って人に接する。
- いじめを見ている人がいじめをしている人を注意したり、一人一人の小さな勇気をもって防いだりすることが大切。
- 勇気を出すのは、いじめをしている人でもなく、されている人でもなく、見ている人だと思えます。見ている人が勇気を出し、「それはダメ」など声を出せばいいし、一人では無理でも何人かで言えば、している人もいけない事に気づけると思えます。

〔保護者の感想より〕

○私も、子供の頃は、陰でコソコソと言う事がいじめだとは思っていなかったけど、こうやって道徳の授業で勉強してみると、あの頃、自分もいじめめた事をしていたのではないかと反省しました。今後、子供達がいじめのない社会ですごせるようになると思うと良いと思います。

【2年生】「これは駄目？ これも駄目？」

〔教材のあらまし〕日常生活における具体的な事例について、節度、節制にかなっているかどうかを考える学習を通して、自分の判断基準を見つめてみました。

「○○を食べ過ぎてしまう」「テレビを見過ぎてしまう」「スマホをし過ぎてしまう」「夜遅くまで起きてしまう」「お金を使い過ぎてしまう」など、つい

○し過ぎてしまうことは大人にも子どもにもあることです。それは悪い面しかないのだろうか、そうならないように自分をコントロールするには何が大事だろうか、といったことを考えました。(裏に続きます。)



・・・道徳懇談会・・・

「地域ぐるみで子どもたちを育てよう!!」というテーマで意見交流をしました。一部ですが、ご紹介します。

地域での声かけについて

- 挨拶をすると、顔を知っていれば、返事が返ってくる。
- 家に遊びに来ている時は、「おじゃまします」「ありがとうございます。」「ごいりました」などの挨拶はきちんとできている。
- 家庭で、「挨拶はせんといかんよ。」と声をかけている。
- 「髪切った？」など、気軽な話題で声をかけている。
- 試合などでは、「頑張ったね。」「良かったね。」と声をかけるように心がけている。
- 知らない子には声がかけにくい。防犯上警戒されるのでは。
- 自分は声をかけるが、我が子には、知らない人にあまり関わらないように言っている。
- 声はかけず、アイコンタクト、笑顔、会釈などで挨拶することもある。



地域のつながりについて

- 溝掃除などはあるが、地域の間接は薄らいでいるように感じる。
- 部活動や行事などに協力している。地域の方が試合の応援にきてくださることがあり、嬉しく感じる。
- 地域の行事は、小学校は多いが、中学校は少ない。廃品回収などは皆で参加できるのでいいと思う。
- 大会などで、子供達が週末に地域にいないこともある。
- 地域全体で気をつけていくことが大事。



意見交流を通して、多くの方たちが子供達を大事に育て下さっていることを改めて感じました。その一方で、現代社会の不安を反映したご意見もありました。短い時間でしたが、熱心に交流をしてくださり、ありがとうございました。

- (道徳ノートより)
- 「〇〇し過ぎてしまったら〜」と、その後のことを考える。先のことを考える。
 - 時間で決めて、何時〜何時まではこれ、といったようにする。
 - 自分に厳しくする。
 - それをしてしまうと、自分がどうなるかを考えて行動することが大切だと思いました。しない方が良いと思っただら、がまんすることができると思ったからです。

【3年生】「優しいうそ」

(教材のあらまし) 交通事故で身体を失った筆者は、自分の女優生命が絶たれたと絶望していた。しかし、周囲の人々に支えられながら、少しずつ自分にできることを増やしていく。さらに、恩師の一言が筆者に新たな目標と希望を与え、「生きることが大好き」と言えるまでになる。



授業では、一度は絶望していた筆者が、「語り」という新たな目標に挑戦できたのはどうしてだろう、「生きることが大好き」と言える生き方とはどういう生き方だろう、ということについて意見を出し合いました。

(道徳ノートより)

- 生きることが大好きと感ぜられるような生き方をしたいです。
- 生きていくことが当たり前だと思っていただけ、いつ何が起るかわからないので、命を大切に楽しく生きたいです。
- 生きることの大切さということを学ぶことができました。
- どんな嫌なことがあったとしても、どれだけ不幸なことがあったとしても、あきらめず人生を生きることができたら、いつかは報われると思いました。
- 私はこの教材を通して生きることが大好きとは思えない。でも、生きることができていることに感謝をすることはできるなと思った。